

2022年2月期 第3四半期決算説明会

【質疑応答要旨】

日時：2022年1月14日（金）10:00-10:30

説明者：取締役 財務・経理・IR担当 佐藤 修

- Q. 第3四半期およびそれ以降の売上動向について、全体感やブランド別、販路別に教えてほしい。また現状を踏まえて、今後の課題について教えてほしい。
- A. 売上動向につきましては、既存店ベースでは、昨年9月は前年同月を若干下回る状況でしたが、緊急事態宣言期間終了後の10月以降は、前年同月を超えて推移しています。昨年度にグローバル事業構造改革の一環として不採算店舗の閉鎖を行いました。それらを含む全店ベースでも10月以降は前年同月を超える水準となっています。また、12月度も同様の動きが継続し、年明けの初売りの結果も好調でした。ブランド別では、『J. プレス』などの既存ブランドや、D2Cブランドでは『UNFIRO』、『uncrave』などが好調に推移しています。販路別では、引き続きEコマースの販売が堅調に推移しており、ECとリアル店舗を融合したOMO店舗も現在15店舗まで拡大し、お客様から好評価をいただき販売は着実に伸びています。今後につきましては、EコマースとOMOストアの拡大戦略を更に進めていきたいと考えています。
- Q. 原材料などコストの上昇の影響について教えてほしい。
- A. 原材料価格の上昇については、サプライチェーンの構造改革により効率化等を推進することで対応していく計画です。
- Q. 第3四半期のオンワード樫山の売上実績は、会社計画対比の進捗率でどの程度か教えてほしい。
- A. 会社計画については公表しておりませんが、第3四半期のリアル店舗の売上実績はアグレッシブに立てた会社計画には届いていません。Eコマースについては会社計画に対し順調に推移しています。
- Q. 通期での営業黒字目標については、グローバル事業構造改革による海外事業の大幅な損益改善の影響が大きいと思うが、現段階でその達成の可能性についてどのように考えているのか。
- A. 海外事業の昨年度第4四半期は大きな赤字でしたが、今年度第1四半期に欧州のイタリア事業から撤退したことにより、今年度第4四半期は前年同期に発生した30億円の赤字がなくなる見込みです。欧州事業については、概ね計画通りに収支改善が図られてい

ると認識しています。海外事業では、唯一、グアムのリゾート事業がコロナ禍の影響を受けて観光客が見込めず計画達成が難しい状況です。

- Q. グローバル事業構造改革がほぼ終了したことを受けて、来期以降どのようにして利益を拡大していく計画なのか。
- A. 今後の利益拡大策としては、リアル店舗では売り方を変え、OMO ストアを更に拡大していく計画です。特に、E コマースのシステムリニューアルで行った、お客様に商品を試着していただき気に入った商品をご購入いただく「クリック&トライ」なども、OMO ストアの更なる推進に役立つと考えています。また、既存ビジネスでは、適正な在庫管理と、在庫の一元化による販売機会ロスの低減などにより、利益の拡大につなげていきます。更に、D2C ビジネスでは、お客様の購入データからニーズを的確に把握し、価格設定を含め迅速かつ適切に対応していく方針です。